

一般質問



○田沢湖病院の鈴木直志先生を引き続き勤務していただくお願いはできないか

藤原助一 議員

田沢湖病院の今後の運営について

質問 田沢湖病院を診療所化の方向から病院として存続するため、経営改善に尽力された鈴木直志先生が義務年限の任期が近づいている。

多くの市民が信頼している。鈴木先生に引き続き勤務していただくようお願いできないか。

答弁 鈴木直志先生は平成20年4月1日より田沢湖病院に赴任されている。

今年の4月からは市職員ではなく、秋田県職員として医療業務を行っている。鈴木先生は地域医

療に対して非常に熱心な方で、多くの患者さんに慕われている。経営改善のために障害者施設等一般病棟の実施により赤字の解消など先生の御指導による部分が大変多いという状況である。今年度で勤務年限が終えられる

が来年度も残ってもらえるように職場や生活環境整備に努め、今後とも、全市を挙げて勤務していただく活動をしていきたい。

市の危機管理対策について

質問 地震を始めとする自然災害。国際情勢が誘発する大規模テ

ロなど、人命に影響を及ぼす危機管理の備えは十分か。

答弁 仙北市では地震、風水害などの自然災害については、地域防災計画に基づいて対応している。

外部からの武力攻撃等については、国民保護計画を策定し国民保護法の体験を整えている。

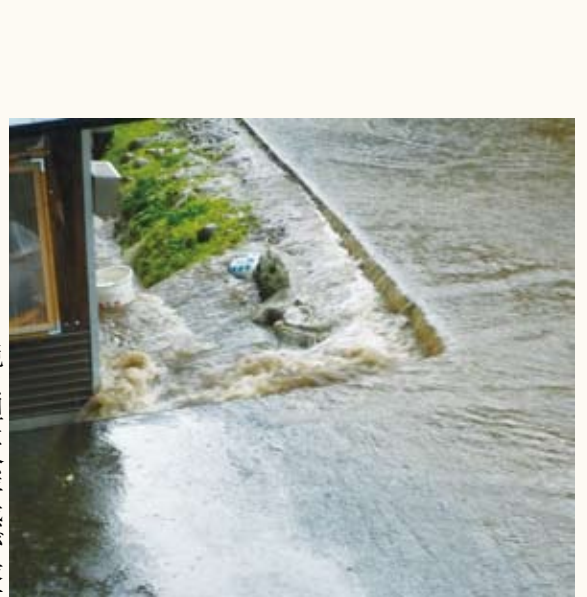
しかし、近年ではこれまで想定されなかった新型インフルエンザ、食

中毒、口蹄疫など発生している。この様な危機が発生した場合でも拡大を防止する仕組みづくりのガイドラインを策定し、

市民へ情報の伝達方法や初動体制など危機管理の対応を示す考えでいる。

質問 職員の不祥事に対する対策と市民との信頼関係を築く方策は何か。

答弁 職員の不祥事に対しては、国民保護法に基づいて対応している。不祥事の原因は、職員の倫理観やモラルの欠如、未然に防ぐことができなかった組織



危機管理体制の強化を（7/3集中豪雨被害 角館町外ノ山）

やシステムにも原因がある。コンプライアンスの徹底を図り、不正の起きないシステムづくりに取り組み、市民の信頼回復に努めたい。

質問 税の徴収率向上は納付しやすい納期の設定

○農家においては収穫時期

給与者においては納税回数や毎月にするなど納期を一律に固定しないで納税者に選択させることは出来ないか。

答弁 農業者、商店主、工業関係者等に配慮する考え方もあるが、

税負担は公平感が最大のセーフティネットであり、公平感を崩すことのない納税の仕組みを検討していきたい。

質問 市民が納めた税金の使われ方を、もっと分かりやすく広報等で紹介できないか。

答弁 税金の使われ方が福祉、学校、建設事業などどれくらい使われているかについて、市ではグラフや一般財源という形で示しているが、実際には市税がどれほど事業に投下されているか明確に示したことはないと思う。新しい視点であり検討したい



経営改善の柱となっている「障害者施設等一般病棟」

一般質問



○農業と観光産業の連携について

黒沢龍己 議員

紅ソバあか

振興策について

質問 市の農業は、地域の特性を活かした観光産業との連携が重要である。

紅ソバは新たな戦略商品に十分なり得るものである。

市単独の転作物物として奨励金制度の創設や、市内での紅ソバ粉の普及促進を図るべきと思うが市長の見解を伺う。

答弁 非常に有望な観光資源であり、食材であると認識している。

昨年角館地区で、赤ソバの肥培管理の徹底により、一定量の種子確保に成功し、今年から山谷川崎地区で本格的に栽培の予定であると同っている。

一面に咲く赤い花が、観光資源として貴重であり、今後安定的にソバ粉の確保が可能になれば、新たな戦略商品になれると思う。

今後、どう展開出来るのか総合産業研究所と農家、関係者と可能性を探りたい。



一面に咲く紅そばの花

市消防幹部団員の定年延長について

質問 市消防団員は、団員から団長まで一律65歳の定年である。大曲仙北エリアでの定年制の統一を図り、本市消防団にあっても、副分団長以上の幹部に、70歳までの定年延長は考えられないものか。

答弁 合併と同時に、連合消防団として

発足したが、平成20年仙北市消防団として再編し、定年を一律65歳に改めた。

大曲、美郷の支部と比較すると確かに5歳の開きがある。

70歳定年制では、若年層への指導力強化に繋がるメリットが考えられる。反面、昇格の機会が長期にわたり、消防団自体の活性化の妨げになる

心配もある。

この後、予想される団塊世代の大量退団が懸念されるので、今後の消防団の登録年齢の推移も参考に、実態に即した方向性を模索したい。

風力発電について

質問 新しい風力発電マグナス方式は非常に弱い風速で、年間3万キロワットの発電が出来る。

新たな観光資源としての可能性を見据えた専門的な調査を行う考えはないか。

市内の設置箇所はほとんどの風の豊かな海岸線沿いとなっている。

答弁

市内における風力発電に対する取り組みは、平成11年に旧高野牧場と、仙岩から吹き下ろす生保内東風について調査の検討が行われたが、風調査までには至っていない。

しかしながらスパイラルマグナス風車は、弱い風でも発電できる性能を有しているため、今後の当市における風力発電の可能性はないとは言えない。



注目を浴びているスパイラルマグナス風車(大湯村道の駅)

一般質問



○市立角館病院の早急な改築を ○合併特例債で新庁舎の建設を

阿部則比彦 議員

市立角館病院の早急な改築を

質問 周辺の自治体病院や厚生連病院、日赤病院等が統々と改築される中、角館病院の老朽化は際立っており、早急に改築しなければ、い

ずれ患者が激減する。今、湖東病院の医師の大量退職が問題になっているが、このままでは角館病院も同様の問題で医療体制の崩壊すら危惧される状況になりつつあるのではないか。

答弁 病院の建物、施設が進み医療機能の低下が危惧される状況にあり改築による施設整備が不可欠な状況と認識している。新病院基本構想では開院を7年後の平成28年度と想定している。

合併特例債で新庁舎の建設を

質問 現在の分庁舎方式は行財政改革を

阻害している最大の要因であり、これも早急な建設が必要だが合併特例債の使えるうちに建設しなければ将来にわたって実



老朽化が著しい市立角館総合病院

現不可能になるのではな

答弁 分庁舎方式による市役所業務の意思決定のスピードが遅く、危機管理や非効率性の解消も必要と認識して

いる。市役所庁舎のありかたに関して、一体性を確保し、既存施設の活用も含め、総合的な見地から調査研究をいただく「みんなの庁舎検討委員会」を7月には設置し市民の皆様のご意見を頂戴したい。

ご指摘のとおり、合併特例債は庁舎の改築には大変有利な財源だ。総務

省では限度額を発行出来ない合併市町村が多数あることから、発行期限の延長を検討しているという情報もあり国の動向にも注視している。

市民の福祉や事業に廻る予算が職員の給与に食われている

質問 現在仙北市の抱

えている最大の懸案は職員の異常な多さだ。県南の各市に比較しても単位人口あたり20割から36割も多い。これでは市民の要望する事業が出来ない。自然減を待っていたら適正化するまで

10年も20年もかかる。これは職員には気の毒だが病院と市役所をただちに建設して建設費の返済の目途が立つまでの暫定期間、給料の5〜8割程度の削減を願うつもりはないか。

答弁 職員給与の削減は職員の仕事に対する意欲や地域の経済状況等から慎重な対応が必要だ。全県25市町村のなかでも下から4番目に給

与水準が低いことや、計画を上回る水準で職員のスリム化が進むものと考えており、現時点では考慮していない。しかし財政事情を勘案した中で大規模事業に取り組む場合や、やむを得ないと判断される事案が発生した場合は職員の理解を得た上で実施することも有り得ると考えている。



質問のあった新庁舎問題

一般質問



○子育て・保育体制の充実について
○国民健康保険について

平岡裕子 議員

子育て支援・保育体制の充実について

質問 保育支援を必要とする家庭が増加し、内容も多様化している現状をどうのように考えるか。

答弁 子育てでは基本的には家庭の役割であるが、地域社会や自治体としてもそれを支援していく必要がある。保育を始め、「こんにちは赤ちゃん事業」や「子育て支援センター」など、様々な事業により充実を図りたい。

質問 受入枠により希望の保育所に入所できない家庭のため新たな施設を検討すべきではないか。

答弁 遊休の公有財産を活用し、分園として設置することは可能であるが、設備投資や保育士の確保が課題となる。まずは、既存施設を最大限有効活用する中で、保育士確保に努め、保育待機児童の解消に努力したい。

質問 パート職員が多数を占めている保育所の状態は決してよい

結果をもたらさない。正職員にできない理由は何か。

答弁 行政改革を進める中で、正規職員の採用は極めて厳しく、保育士についても臨時職員に頼らざるを得ない状況にある。保育の在り方について市役所内で検討会をスタートさせているが、その中で検討したい。



保育体制の充実を（角館保育園）

質問 国民健康保険について国保に調整交付金の増額を国に求めているのか。

答弁 将来にわたり安定的で持続可能な

国民皆保険制度構築のため、医療保険制度の一本化早期実現について、県全体として国に働きかけている。

質問 国保税増額により困窮する市民の生活をどのように守るのか。

答弁 見過ごしていた部分の歳出抑制や、健康づくり等医療費適正化対策を講じながら、被保険者の負担の軽減に努めたい。

質問 医療費抑制のための具体的な施策は。

答弁 特定健康診断、特定保健指導の啓発、ジェネリック医薬品の利用促進に努める。また、重複・多受診者への訪問指導を実施する。

ごみ処理について

質問 ごみ分別による処理施設の負担の軽減はどうか。

答弁 施設負担軽減のため、生ごみの水切りなどごみの出し方等については、よりよい手だてがあれば構築したい。

質問 可燃ごみ回収の間隔が空かないようカレンダー調整はできないか。

答弁 市民の代表の方々から組織する審議会で協議の上、できるだけ御不便をかけないようにカレンダー作成に努めたい。

質問 資源ごみは指定の袋以外でもよいのでは。

答弁 指定袋を使用することで効率的な収集体系を確立して分別のマナーとごみ減量化意識の向上が図られると同時に、袋の中身が見える

ことにより収集業者の方々の安全面にも寄与していることをご理解頂きたい。

神代小学校改築工事について

質問 神代小学校における仮校舎解体工事が進んでいないがその対応は。

答弁 工事を請け負っていた事業者の事業停止により作業がストップしている。破産管財人と協議の上、一日も早い整備完了に努めると同時に子供達の安全確保にも万全を尽くしたい。



早期整備完了が求められる神代小学校解体工事現場

一般質問



○住み続けられる仙北市であるために
○働く場所の確保と少子化対策・子育て支援の充実を

高橋 豪 議員

企業誘致活動について

質問 将来にわたり住み続けられる仙北市であるためには、市民が生活していく上で、安定した仕事があることが大前提である。地域産業の活性化、あるいは新たな産業を創造すること、観光資源を活かして外貨を得ることなどにより所得アップを図ることが必要だが、一方でこれまで誘致企業が地域の雇用に大きく貢献してきたことをふまえると、これら内容的施策と同時に企業の誘致活動にも力を注ぐ必要がある。仙北市として

の企業誘致に対する考え方、具体的活動の内容、その成果、そして今後の見通しについて市長の見解を問う。

答弁

企業誘致活動は市の産業形成上、また、雇用政策上重要な手法であると考えている。生産拠点の多様化が進んでいる中、当市の企業誘致の基軸は、角館・田沢湖という地域ブランドの強化だと考える。ブランド構築により、誘致企業のみならず地元企業の発展にもつなげたい。活動としては首都圏での企業誘致懇談会等への参加や、パンフレットの配



多くの市民が働く市内の誘致企業

布、年間目標 50社の企業訪問等を行っている。成果として形になっているものはないが、情報と人脈という点では一定の成果はある。製造業に限らず健康・情報・新エネルギー分野等対象を広げ活動することで光明を見出したい。

少子化対策・子育て支援について

質問 日本中で少子化が課題とされる中、本市も例外ではない。少子化・子育て支援に対する認識と今後の対策を問う。

答弁 少子化を考えた時、若者の定住が一番の解決策である。雇用対策・所得対策等により若者が住める環境を作りたい。子育て支援については社会で支える制度を充実させる必要がある。

質問 共働き家庭が多い中、保育所の待機・保育児童を解消する必要がある。なぜこの現象が起こるのか、またその対策を問う。

答弁

待機・保育児童の一番の原因は保育士の不足である。遊休施設を利用した分園を行ってもそこに保育士が必要となる。現在募集はしているが臨時職員という条件のため簡単に集まらない。園の在り方を検討したい。

質問

本市は小学校入学前までの子供に対し福祉医療費の助成を行っているが、大仙市では小学校卒業まで助成され、本市と比べ大きな差がある。大仙市並みに助成範囲を拡大してはどうか。

答弁

様々な制度の充実あるいは不足に

より人口異動が起こる可能性が十分にある。市として少子化・若者対策等に力を入れることとしているのでこの分野での研究も是非進めたい。

質問

放課後児童クラブの開設時間・開所日について、保護者の就労状況を考慮し、ニーズに答えられるよう変更していくべきではないか。

答弁 現在の開所時間で不便との声が多ければ時間の延長も含めて検討する。今後、アンケート調査によるニーズの把握も行いたい。



小学校低学年のための角館放課後児童クラブ